

令和5年度

事業報告



日本赤十字社 和歌山県支部
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るために、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 單 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

1	災害救護対応	1
2	国際活動	8
3	赤十字奉仕団組織の強化	9
4	青少年赤十字	16
5	赤十字各種講習	18
6	会員の増強と活動資金の増収	21
7	広報活動の強化	24
8	評議員会	29
9	決算概要	30



1 災害救護対応

国内において大規模災害等が発生した場合、日本赤十字社は、以下の災害救護活動を行います。

- (1) 医療救護
- (2) こころのケア
- (3) 救援物資の備蓄と配分
- (4) 災害時の血液製剤の供給
- (5) 義援金の受付

これらの災害救護活動は、赤十字事業の最重要事業の1つです。

また、このほかにも、住民の方々の様々なニーズに応じた活動を展開することとしています。

(1) 医療救護

日本赤十字社は、医療救護を展開するため、全国の都道府県支部に489班、そのうち和歌山県支部に7班（1班あたりの編成は医師1人、看護師4人、薬剤師1人、主事1人）の常備救護班を編成し、災害時の初期医療から中長期にわたって被災地で活動を行える体制を備えています。

また、和歌山県と災害派遣医療チーム（DMAT）の派遣協定を締結しており、県からの派遣要請に備えています。現在、和歌山県支部では4チーム（原則、1チームあたりの編成は、医師1人、看護師3人、業務調整員1人）、計21人の隊員が登録しています。

さらに、日本赤十字社が行う災害救護活動に関する調整や、自治体、他の医療チームとの連携、調整業務等を行う、日赤災害医療コーディネートチームを2チーム（1チームあたりの編成は、コーディネーター1人・コーディネートスタッフ2人）登録しています。



① 令和6年能登半島地震での活動について

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震に対し、和歌山県支部では、常備救護班9班、日赤災害医療コーディネートチーム3班、こころのケア班2班、DMAT ロジスティクチーム2名、支部支援要員1名を派遣し、石川県金沢市、輪島市、珠洲市などで活動を行いました。



◇令和6年能登半島地震救護班等派遣一覧

【日赤災害医療コーディネートチーム】

班名	派遣期間	派遣場所	派遣人数	活動内容
第1班	1月4日～9日	石川県輪島市	4人 (支部職員1名含む)	輪島市保健医療福祉調整本部にて、行政機関等と連携し、医療ニーズの把握や医療活動・避難所支援等の指揮、助言を実施
第2班	1月25日～30日	石川県輪島市	4人 (支部職員1名含む)	
第3班	2月20日～26日	石川県輪島市	4人	

【常備救護班】

班名	派遣期間	派遣場所	派遣人数	活動内容
第1班	1月9日～13日	石川県輪島市	8人 (支部職員1名含む)	避難所のアセスメントや支援、巡回診療を実施
第2班	1月14日～18日	石川県輪島市	8人	
第3班	1月17日～21日	石川県輪島市	8人	
第4班	2月1日～5日	石川県輪島市	10人 (支部1、ボランティア1含む)	避難所のアセスメントや支援、巡回診療、また、支援者こころのケアを実施
第5班	2月7日～11日	石川県輪島市	9人 (支部職員1名含む)	
第6班	2月11日～15日	石川県輪島市	8人	
第7班	2月16日～20日	石川県輪島市	8人	
第8班	2月22日～26日	石川県輪島市	9人 (支部職員1名含む)	
第9班	3月1日～5日	石川県輪島市	7人	

【こころのケア班】

班名	派遣期間	派遣場所	派遣人数	活動内容
第1班	3月3日～9日	石川県珠洲市	4人	被災者及び支援者のこころのケアを実施
第2班	4月12日～18日	石川県珠洲市	4人	

【DMAT ロジスティクチーム】

派遣期間	派遣場所	派遣人数	活動内容
1月11日～17日	石川県金沢市	4人	石川県庁において高齢者施設等の支援を実施
2月12日～18日	石川県金沢市	4人	

【日本赤十字社石川県支部支援】

派遣期間	派遣場所	派遣人数	活動内容
3月3日～7日	石川県金沢市	1人	支部事務の支援を実施

②訓練、研修の実施

災害が発生した際に円滑に救護活動が行えるよう、令和5年度は、以下のとおり訓練、研修を実施しました。

訓練・研修名	開催場所	参加者（人）
近畿地方DMATブロック訓練	兵庫県	6
日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練	兵庫県	25
大規模地震時医療活動訓練	四国・九州	5
和歌山県支部常備救護班研修	和歌山医療センター	49
近畿地方DMATロジスティクス研修	兵庫県	1
和歌山県DMATロジスティクス研修	和歌山県橋本市	2
和歌山県総合防災訓練	和歌山県	8
緊急消防援助隊近畿ブロック訓練	和歌山県海南市	12
DMAT技能維持研修	大阪府	5
DMAT養成研修	兵庫県	4
日赤災害医療コーディネート研修（指導スタッフ）	本社	4

（2）こころのケア要員及び指導員の育成

大規模災害が発生した場合、多くの死傷者の発生や家屋の倒壊、ライフラインの途絶等の様々な要因により、被災者は複雑なストレス状態に陥ります。

日本赤十字社は、被災者の健康や身近な悩みなどを傾聴し、不安の軽減とストレス緩和に向けた働きかけを行うことを目的として、被災地の避難所や地域で活動するこころのケア要員を派遣します。

令和5年度は以下の研修を実施し、こころのケア要員及び指導者を養成しました。

◇こころのケア研修状況◇

研修会名	実施日	実施場所	養成者数
こころのケア研修	3月4日／3月7日	和歌山医療センター	20人
こころのケア指導者養成研修会	10月11日～12日	本社	1人

(3) 救援物資の備蓄と配分

大規模災害の発生時には県市町等と協議・調整を行い、当支部救護倉庫及び地区分区に備蓄している毛布や緊急セット等の救援物資を、被災された方々に届けられるようにしています。

品目	備蓄数
毛布	3,497枚
緊急セット	1,417セット
安眠セット	270セット
タオルケット	1,167枚

<救援物資備蓄数(令和6年3月末現在)>



緊急セット

(4) 災害時の血液製剤の供給

血液製剤の確保と医療機関への供給体制を整え、災害時に円滑に供給が行えるよう努めました。

(5) 義援金の受付

令和5年度において、国内で発生した大規模災害の被災者を支援するために受け付けた義援金は、以下のとおりです。

	義援金名	受付金額
1	令和5年台風第2号等大雨災害義援金	30,531,531円
2	令和5年台風第13号災害義援金	192,495円
3	令和5年6月30日からの大雨災害義援金	15,188円
4	令和5年7月7日からの大雨災害義援金	185,177円
5	令和6年能登半島地震災害義援金	70,008,473円
	合 計	100,932,864円

受け付けた義援金は全額、被災都道府県に設置された義援金配分委員会に送金し、市町村を通じて被災された方々へ届けられます。

義援金は全額、被災者のもとへ



(6) その他

① 小災害見舞品の配分

火災などの小災害^(※1)発生時には、その状況に応じて、毛布や緊急セット等の災害見舞品を地区分区を通じて配付します。

令和5年度は、毛布73枚、緊急セット52個、タオルケット33枚を配付しました。

	新 宮 市	紀 美 野 町	伊 都 郡	有 田 郡	日 高 郡	東 牟 婁 郡	合 計
毛 布	4	6 2	—	1	1	5	7 3
緊急セット	2	3 0	1 4	1	2	3	5 2
タオルケット	—	—	3 3	—	—	—	3 3

(※1)小災害とは、火災や風水害等に起因する被害が災害救助法の適用に至らない規模の災害をいいます。

〈配分基準〉

品目	配分基準	配分数
毛布	(1) 小災害で住家が全焼、全壊、流失した世帯 (2) 半焼、半壊、床上浸水であっても長期間寝具等が使用不能であることが予想される世帯	原則として被災者 1人あたり1枚
緊急セット	(1) 小災害で住家が全焼、全壊、流失、半焼、半壊、床上浸水した世帯 (2) 避難所等に避難を要する世帯	原則として1世帯 (4人)あたり1個

② 災害救護装備等の充実

ア. 災害時の移動手段確保

災害時の移動手段として、電動アシスト付き自転車を希望のあった県内59カ所の各地区分区に整備しました。



イ. 赤十字救護看護師の養成

通常の看護だけでなく、国内外での自然災害や紛争に際し、救護業務に従事できる赤十字救護看護師の養成を支援しました。

③ 防災・減災セミナーの実施

南海トラフ地震等の大規模災害に備え、県内各地で住民の方々を対象とした防災・減災セミナーを実施しました。

このセミナーは、「自分の命は自分で守る、地域の安全はみんなで守る」ことを主眼に置き、発災時の行動に役立てられるよう開催しているものです。

なお、現在、セミナー講師は13人（職員3人・ボランティア講師10人）となっています。



◇防災・減災セミナー実施状況◇

開催地	対象者	受講者数(人)
かつらぎ町	伊都身体障害者連絡会	20
和歌山市	県立和歌山工業高校	25
和歌山市	JRC加盟校	99
かつらぎ町	かつらぎ町社会福祉協議会	31
和歌山市	県立和歌山商業高校	31
かつらぎ町	かつらぎ町社会福祉協議会	45
和歌山市	自治会(紀伊地区連合会)	18
白浜町	自治会(白浜地区)	193
和歌山市	岩谷産業	40
和歌山市	宮前分区	60
和歌山市	部落解放同盟女性部	52
白浜町	自治会(白浜地区)	109
湯浅町	女性会	39
有田川町	有田川町分区	23
太地町	太地町奉仕団	70
桃山町	紀の川市地区(桃山)	33
合	計	888



2 国際活動

(1) 国際救援活動

国外で続発している自然災害等の被災者や難民の支援のため、また被災地の復興支援活動や保健衛生・災害対策などのため、和歌山医療センターから医療救援スタッフを現地に派遣し、緊急救援活動を行いました。

(2) 海外救援金の受付

海外で発生した大災害の被害者や紛争による難民などを支援するために受け付けた海外救援金は、以下のとおりです。

	海外救援金名	受付金額
1	青少年赤十字1円玉募金	22,156 円
2	NHK海外たすけあい	2,112,783 円
3	バングラデシュ南部避難民救援金	10,000 円
4	アフガニスタン人道危機救援金	10,000 円
5	ウクライナ人道危機救援金	605,505 円
6	イスラエル・ガザ人道危機救援金	92,518 円
7	2023年アメリカ・ハワイ火災救援金	54,656 円
8	2023年モロッコ地震救援金	236,173 円
9	2023年リビア洪水救援金	236,173 円
10	2023年トルコ・シリア地震救援金	5,747,166 円
	合 計	9,127,130 円

このうち、「NHK海外たすけあい」については、令和5年12月1日から25日まで、日本放送協会（NHK）及びNHK厚生文化事業団との共催で、キャンペーンを実施しました。

キャンペーンでは、県内各赤十字奉仕団の協力を得るとともに、NHK和歌山放送局内に受付窓口を設置して、ご協力をいただけるようお願いしました。

お寄せいただいた海外救援金は、日本赤十字社や国際赤十字、被災国の赤十字社・赤新月社が現地で行う救援活動・復興支援活動などの資金として活用されます。

(3) 安否調査

武力紛争や、家族の離散等によって行方不明になっている身内の安否確認の依頼に対し、行方不明者の所在等の情報の収集に努めています。



3 赤十字奉仕団組織の強化

(1) 地域赤十字奉仕団

① 赤十字奉仕団組織の強化

県内の地区分区単位に結成されている奉仕団及び団員数は、令和5年度末現在、47団、5,364人となっており、赤十字の理想とする人道的な活動や地域の福祉と人々の相互理解を育む奉仕活動を積極的に実践していただきました。

県支部からは、地域に密着した奉仕活動を展開し、奉仕団活動がより一層充実したものとなるよう働きかけました。

地域赤十字奉仕団結成状況は、別表(11頁に掲載)のとおりとなっています。



② 赤十字奉仕団委員長会議の開催

赤十字事業や奉仕団活動の連携と情報共有を図るため、以下のとおり奉仕団委員長会議を開催しました。

第1回 令和5年4月18日 (本県支部にて開催)

第2回 令和5年8月29日 (本県支部にて開催)

③ 赤十字奉仕団委員長研修の中止

県外奉仕団との交流等による開催を予定していましたが、能登半島地震が発生し、和歌山県支部においても救護活動等を行うこととなつたため、中止としました。

④ 赤十字奉仕団員研修会の開催

所属奉仕団の今後の活動を率先する団員を育成することを目的とする赤十字奉仕団員研修会を、白浜町のホテルにおいて9月13日から14日の1泊2日で開催しました。

この研修会では、地域に密着した奉仕活動を率先して行い、奉仕団のリーダーを担う副委員長や団員など、総勢51人が参加し、奉仕団指導講師による講義や実技などを受講しました。



⑤ 和歌山県赤十字奉仕団大会の開催

12月7日和歌山城ホール小ホールにて、「第34回和歌山県赤十字奉仕団大会」を開催しました。

本大会では、永年にわたり赤十字奉仕活動にご尽力頂いている方々に対し、業務功労表彰を贈呈しており、式典においては、来賓、受賞者、赤十字奉仕団委員長及び地区分区担当者など県内から約210名が参加し、個人4,360名、団体3団が表彰され、それぞれの代表者7名が登壇して、日本赤十字社和歌山県支部支部長から、有功章、支部長感謝状が授与されました。

また、地域奉仕団と特殊奉仕団を対象に、奉仕活動を積極的に実施した奉仕団を優良赤十字奉仕団と認定し、表彰する制度を新たに設け、初めて認定された太地町赤十字奉仕団に対し、日本赤十字社和歌山県支部支部長から、認定証と表彰状が授与されました。



⑥ 広報紙「奉仕団だより」の作成

平成26年度から毎年継続して発行している「和歌山県奉仕団だより」の第10号を発行し、県内の全赤十字奉仕団員および関係者に配付しました。



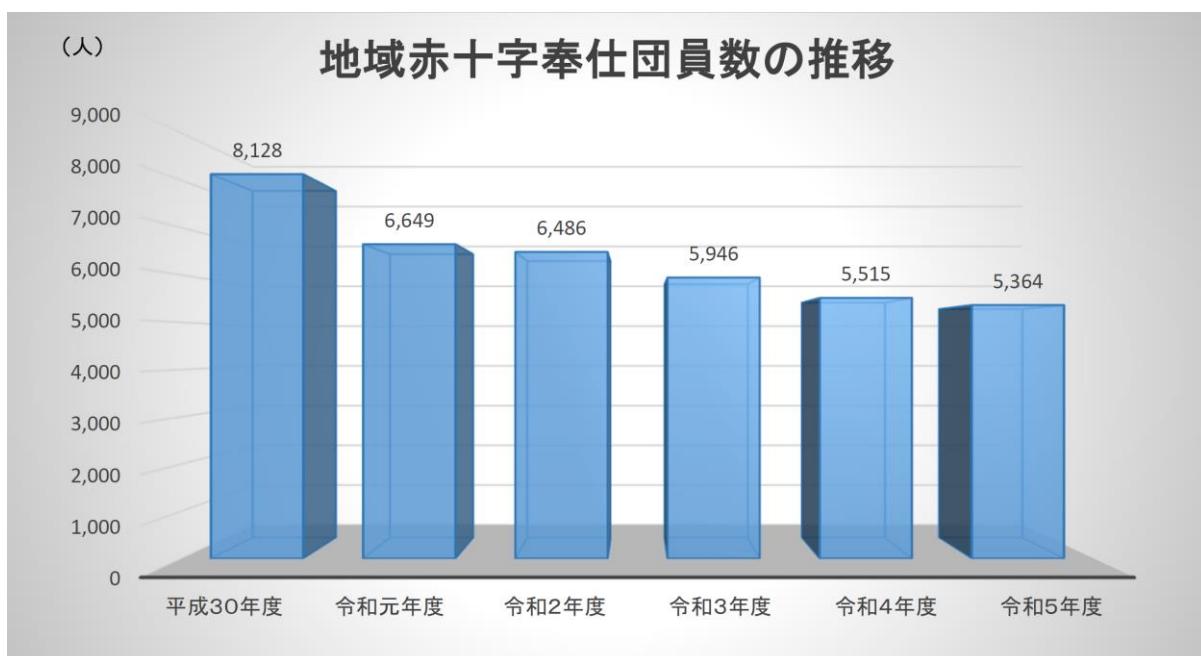
【別表】

地域赤十字奉仕団結成状況

(令和6年3月31日現在)

市 地 区 地 域 奉 仕 団	区分	結成数	男性(人)	女性(人)	合計(人)
	和歌山市	17	150	889	1,039
	海南市	2	19	143	162
	橋本市	1	103	44	147
	有田市	1	0	278	278
	御坊市	1	8	152	160
	田辺市	5	46	395	441
	新宮市	1	17	157	174
	紀の川市	5	221	1,157	1,378
	岩出市	1	17	221	238
	小計	34	581	3,436	4,017

郡 地 区 奉 仕 団	区分	結成数	男性(人)	女性(人)	合計(人)
	海草郡	1	4	20	24
	伊都郡	2	13	261	274
	有田郡	1	0	163	163
	日高郡	2	0	40	40
	西牟婁郡	4	145	380	525
	東牟婁郡	3	34	287	321
	小計	13	196	1,151	1,347
	合計	47	777	4,587	5,364



(2) 青年赤十字奉仕団

青年赤十字奉仕団は、社会人や学生等で構成されており、当支部には近畿大學生物理工学部に結成された「近畿大學生物理工学部学生赤十字奉仕団」、及び和歌山大学に結成された「和歌山大学和歌山ASEANプロジェクト学生赤十字奉仕団」、東京医療保健大学和歌山看護学部に結成された「東京医療保健大学和歌山看護学部学生赤十字奉仕団」がありますが、新たに和歌山医療スポーツ専門学校に「和歌山医療スポーツ専門学校学生赤十字奉仕団」が結成されました。

各奉仕団の結成状況及び活動・研修会については以下のとおりです。

◇青年赤十字奉仕団結成状況◇

団名	男(人)	女(人)	合計(人)
近畿大學生物理工学部学生赤十字奉仕団	3	5	8
和歌山大学和歌山ASEANプロジェクト学生赤十字奉仕団	9	10	19
東京医療保健大学学生赤十字奉仕団	0	36	36
和歌山医療スポーツ専門学校学生赤十字奉仕団	7	2	9

◇主な活動・研修会◇

活動・研修会名	活動奉仕団名(略称)	人数	内容
和歌山県青年赤十字奉仕団基礎研修会	WAP奉仕団	5人	基礎研修
高校生への国際開発教育 (県立和歌山北高校)	WAP奉仕団	9人	グループワーク等で国際開発教育を実施
リーダーシップ・トレーニングセンター支援	近大学生奉仕団	4人	運営スタッフとして活動
和歌山市民図書館での心肺蘇生法啓発 (小学生向け)	東京医療奉仕団	7人	小学生を対象に親子で参加できる啓発イベントを開催

(3) 特殊奉仕団

① 赤十字特別救護奉仕団

和歌山県赤十字特別救護隊は、昭和39年にアマチュア無線の有資格者により結成された赤十字特別救護奉仕団で、災害時の救援、輸送及び通信を主な目的として活動しており、現在、38人が隊員として登録しています。

◇主な活動状況◇

訓練・研修会名	実施場所	実施日	内容
第27回日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練	兵庫県三木市他	6月17日	ボランティア訓練参加
令和5年台風2号に伴う水害への対応	紀美野町	6月7日	救援物資の搬送
アマチュア無線全国通信訓練	支 部	11月5日	アマチュア無線通信訓練
紀の川まつり救護支援	和歌山県紀の川市	8月20日	搬送補助などの救護支援



② 障害者支援赤十字奉仕団

平成16年に結成され、現在17人から成る障害者支援赤十字奉仕団「グループあかり」は、県内の盲学校やボランティアグループ等と連携し、視覚障害児童・生徒への支援活動を行っています。

令和5年度も視覚障害により市販の本を読むことが困難な児童等のために、文字や絵を大きくして見やすく工夫した拡大写本や布絵本などの作品を手作りで製作し、支援学校や障害児施設等に寄贈しました。



◇主な製作品◇

作 品 名
季節のタペストリー（秋）
布絵本 くだものさん
布絵本 だるまさん
布絵本 パンどうぞ
布絵本 パンどうぞ（点字付き）
布絵本 えんそくバス（点字付き）

③ 和歌山県青少年赤十字賛助奉仕団

平成16年に結成された和歌山県青少年赤十字賛助奉仕団は、小・中・高等学校の退職教員18名により組織されています。

当奉仕団は、青少年への赤十字理念の普及を図るため、小・中・高等学校に対する青少年赤十字への加盟促進、青少年赤十字活動支援を行っています。

令和5年度は、大阪府で開催された第4（近畿地区）ブロック青少年赤十字賛助奉仕団交流研修会に3名が参加した他、リーダーシップ・トレーニングセンターの支援に4名が参加しました。



④ 和歌山県安全赤十字奉仕団

令和3年11月に、救急法、水上安全法、幼児安全法、健康生活支援講習の指導員30名により結成され、支部が実施する各種講習において中心的な役割を担い、人命を救うための方法、健康で安全に暮らすための知識や技術を広く普及することを目的に活動しています。

指導員間の連携を強化して指導技術の向上を図り、より質の高い講習を行えるよう努めています。

◇各種講習への安全奉仕団員派遣数及び受講人数

講習回数 (回)	派遣数 (人)	受講人数 (人)
1 3 1	2 8 3	3, 7 7 1



(4) 赤十字個人ボランティア

災害時の支援活動や講習会での指導など赤十字が行う活動を自主的に支援してくださる個人ボランティアの募集を行っています。

令和5年度は、写真ボランティアが奉仕団大会の活動写真の撮影を行いました。

登録数は、右表のとおりとなっております。

活動内容	人数
防災減災講習での指導者	1
災害時の活動支援等	1 0
青少年活動、レクリエーション指導 等	4
筆耕	1
車両（大型、自動二輪）運転	1
慰問活動（剣舞、カードセラピー）	2
通訳（ベトナム語）	1
カメラ・ドローンでの活動写真撮影	1
計	2 1



4 青少年赤十字

(1) 青少年赤十字加盟校と青少年赤十字メンバー

青少年赤十字は、将来を担う子供たちが赤十字を正しく理解し、思いやりの心を身に付け、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、教師が指導者となり学校教育の中で進められる青少年育成事業です。

令和6年3月末現在で、和歌山県内の96校（園）が加盟しており、23,108人のメンバーが活動に参加しています。

	令和5年度				令和4年度			
	県内学校数 (校)	加盟校 数 (校・園)	加盟率 (%)	メンバー数 (人)	県内学校数 (校)	加盟校 数 (校・園)	加盟率 (%)	メンバー数 (人)
幼稚園・保育所	115	11	9%	1,268	115	11	9%	1,199
小学校	248	34	14%	9,372	248	30	12%	8,811
義務教育学校	1	1	100%	764	1	1	100%	746
中学校	128	10	8%	1,101	128	11	9%	1,703
高等学校	50	38	76%	10,400	50	40	80%	11,237
特別支援学校	12	2	16%	203	12	2	16%	206
合計	554	96	17%	23,108	554	95	17%	23,902

※ 県内学校数は文部科学省発表『学校基本調査（確定値）』による。

※ 加盟率は県内学校数に対する青少年赤十字加盟校数の比率。

(2) 和歌山県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターの開催

赤十字の人道・博愛の精神に基づいて、「気づき、考え、実行する」という行動目標を、宿泊型の研修の中で身に付けるものです。

令和5年度は、和歌山市青少年国際交流センター（加太）において1泊2日で開催しました。

開催日	開催内容	開催地	参加者
8月9日 ～10日	和歌山県青少年赤十字リーダーシップ トレーニングセンター	和歌山市青少年国 際交流センター	小学生 64人 中学生 9人 高校生 5人



(3) 青少年赤十字スタディー・センターの開催

スタディー・センターは、青少年赤十字活動の中心となる高校生メンバーの育成を図るために、グループワークや実習を通じて、自主的・積極的な行動によりグループ活動とリーダーシップの能力を身に付けることを目的として開催しています。

令和5年度は、山梨県河口湖村東照館で、4泊5日の集合形式で開催しました。

開催日	開催内容	開催地	参加者
3月22日 ～ 26日	青少年赤十字スタディー・センター	山梨県河口湖村 東照館	和歌山北高校 2人

(4) 和歌山県青少年赤十字指導者協議会

青少年赤十字指導者協議会は、加盟校の校長や教諭等で組織され、加盟校での青少年赤十字活動の指導法や普及促進などについて協議し、加盟校間の連携を図っています。

令和5年度は、5月18日に和歌山県青少年赤十字指導者協議会総会を開催し、令和5年度の青少年赤十字の取り組み等について協議しました。



5 赤十字各種講習

人命を救う方法や健康で安全に暮らすための知識と技術を、ひとりでも多くの方に知っていただくため、救急法等の各種講習を行いました。

(1) 救急法

不慮の事故や急病の発生に際し、直ちに手当が必要な傷病者に対する救命手当の方法（胸骨圧迫や人工呼吸の方法、A E D（自動体外式除細動器）の使用方法）を習得する「救急法基礎講習」、医師に引き渡すまでに病状の悪化を防ぐための応急手当の方法（急病やけがの手当、搬送方法等）を習得する「救急法救急員養成講習」、及びこれら両講習の内容の一部を選択して講習時間を短縮した「救急法短期講習」を以下のとおり実施しました。



◇救急法講習の実施状況◇

講習名	実施	実施回数	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
救急法基礎講習	4月～3月	18	324	324	324
救急法救急員養成講習	4月～3月	9	195	195	194
救急法短期講習	4月～3月	58	1,930	—	—
合計		85	2,449	519	518



(2) 水上安全法

水の事故から人命を守るために必要な方法（泳ぎの基本と自己保全、事故防止、溺れた人の救助、応急手当の方法）を習得する「水上安全法救助員養成講習」及び講習の内容の一部を選択して講習時間を短縮した「水上安全法短期講習」を以下のとおり実施しました。

◇水上安全法講習の実施状況◇

講習名	実施	実施回数	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
水上安全法救助員養成講習	7月	1	7	7	7
水上安全法短期講習	7月	12	272	—	—
合計		13	279	7	7



(3) 健康生活支援講習

高齢者の支援、自立に向け役立つ介護技術や、高齢期を迎えた方にも役立つ健康維持の知識を習得する「健康生活支援講習支援員養成講習」及び講習の内容の一部を選択して講習時間を短縮した「健康生活支援短期講習」を実施しました。



◇健康生活支援講習の実施状況◇

講習名	実施	実施回数	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
健康生活支援講習支援員養成講習	11月	1	4	4	4
健康生活支援短期講習	6月～3月	12	429	—	—
合計		13	433	4	4

(4) 幼児安全法講習

子どもに起こりやすい事故や病気の予防と手当を習得する「幼児安全法支援員養成講習」及び講習の内容の一部を選択して講習時間を短縮した「幼児安全法短期講習」を実施しました。

◇幼児安全法講習の実施状況◇

講習名	実施	実施回数	受講者数(人)	修了者数(人)	養成者数(人)
幼児安全法支援員養成講習	7月～12月	3	28	28	28
幼児安全法短期講習	4月～1月	17	582	—	—
合計		20	610	28	28





6 会員の増強と活動資金の増収

(1) 会員の増強

日本赤十字社が行う活動は、会員をはじめとした多くの方々からいただく活動資金によって運営されています。

一人でも多くの皆様に会員に加入していただくよう、日本赤十字社への理解や協力を促すため、5月の赤十字運動月間にあわせて、広報紙の発行やテレビCM、ポスター掲示等の啓発活動に努めました。

(2) 活動資金の増収

① 地区分区扱いの活動資金増収

活動資金増収方策として、支部が作成した活動資金募集資料を各地区区分から、募集活動をお手伝いいただく自治会長や班長へ配付してもらい、募集活動をお願いしました。

② 支部扱いの活動資金増収

支部扱いの活動資金は、近年、僅かながら増加傾向にありますが、なお一層の増収方策として、赤十字に関心を持っていただけるように、広報資料や媒体を活用して、赤十字活動資金へのご協力のお願いに努めました。

主な活動資金の増収方策は、以下のとおりです。

ア. ダイレクトメールの送付

赤十字活動にご支援をいただけるよう、毎年、県内の個人や法人、会員などに対して、活動資金寄付協力広報紙「日赤和歌山」と郵便払込用紙を同封したダイレクトメールを発送しています。

令和5年度には、送付先のデータを精査し、活動資金の増加につながると考えられる約3,000件の送付先を新たに追加し、計25,929通（法人20,682件、個人5,247件）のダイレクトメールを発送し、活動資金の増収に努めました。

イ. 寄付金付自動販売機の設置

飲料販売業者と連携して、県内の企業や個人商店等に設置協力の依頼に努め、現在、設置にご協力いただいている台数は12台（6企業・3施設）となっています。

引き続き設置の協力をお願してまいります。



ウ. 赤十字善意箱の増設

個人・法人の皆様の会社窓口や店頭等に赤十字善意箱（募金箱）設置の協力に努めました。

引き続き、善意箱の設置拡充に努めてまいります。



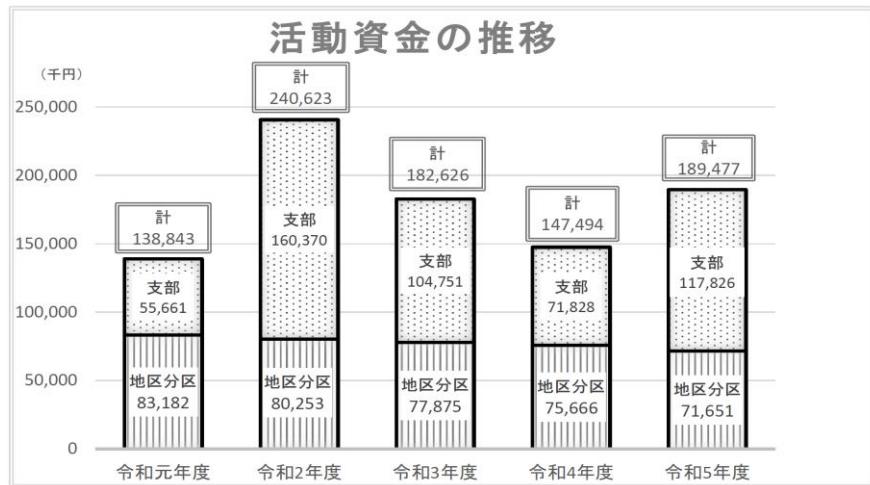
エ. 遺贈・相続財産の寄付

近年、故人のご遺志により、自分の築いた財産を寄付する「遺贈」、ご遺族の方が相続した財産を寄付する「相続財産の寄付」を赤十字へ寄付していただけ
る尊いお申し出が増える傾向にあり、令和5年度には、具体的なお申し出を3件いただきました。

引き続き、専用パンフレットを活用して、遺贈寄付等への受付に努めてまいります。

(3) 活動資金の推移

令和5年度は、県内の個人、法人及び団体等から 189,477 千円のご支援をいただきました。過去には、令和2年度に例年ない高額寄付があり突出した額となりましたが、令和5年度においても、支部が直接集める活動資金のうち、大口の寄付が多くあったことにより、前年度に比べ増額となっています。



◇対前年度活動資金募集実績額比較表◇ (千円)

項目		令和4年度	令和5年度	増減	比率 (%)
支部扱い	会費	一般(個人・団体)	41,053	50,673	9,620 23.4%
		法 人	21,832	28,527	6,695 30.7%
		小 計	62,885	79,200	16,315 25.9%
	寄付金	一般(個人・団体)	4,443	34,126	29,683 668.1%
		法 人	4,500	4,500	0 0.0%
		小 計	8,943	28,527	29,683 219.0%
	合 計	一般(個人・団体)	45,496	84,799	39,303 86.4%
		法 人	26,332	33,027	6,695 25.4%
		合 計	71,828	117,826	45,998 64.0%
地区分区扱い	会費	一般(個人・団体)	73,641	69,733	-3,908 -5.3%
		法 人	969	936	-33 -3.4%
		小 計	74,610	70,669	-3,941 -5.3%
	寄付金	一般(個人・団体)	1,056	982	-74 -7.0%
		法 人	0	0	0 0%
		小 計	1,056	982	-74 -7.0%
	合 計	一般(個人・団体)	74,697	70,715	-3,982 -5.3%
		法 人	969	936	-33 -3.4%
		合 計	75,666	71,651	-4,015 -5.3%
総計	会費	一般(個人・団体)	114,694	120,406	5,712 5.0%
		法 人	22,801	29,463	6,662 29.2%
		小 計	137,495	149,869	12,374 9.0%
	寄付金	一般(個人・団体)	5,499	35,108	29,609 538.4%
		法 人	4,500	4,500	0 0.0%
		小 計	9,999	39,608	29,609 296.1%
	総計	一般(個人・団体)	120,193	155,514	35,321 29.4%
		法 人	27,301	33,963	6,662 24.4%
		合 計	147,494	189,477	41,983 28.5%



7 広報活動の強化

（1）赤十字の広報活動

① 広報紙「日赤和歌山」発行

当支部の活動報告と活動資金の増強の理解を広げるため、広報紙「日赤和歌山」を発行し、県民の皆様に配布（回覧）しています。令和5年度には、地区分区のご協力により、県内全世帯数の9割を超える世帯に配布することができました。

【令和5年8月発行 日赤和歌山】

「外面」

「中面」

活動報告

二面



第4章 第2回 脳波是全有關係

和合5月2日16日(木)、初執事の日本会議3階会議室において、令和元年度第2回日本十文字会和合祭典開催の件について、開催の趣旨と開催の実施方針等について説明する。開催の趣旨は、内閣に於ける令和元年会合の様子を随時された評議録の方に、本部会席、既設セシタ等の重要な事項を審議してくことである。今回の評議録会合は、令和元年春單席会及び歓迎会の開催の趣旨で、内閣に於ける令和元年会合の様子を随時された評議録の方に、本部会席、既設セシタ等の重要な事項を審議してくことである。



ANSWER

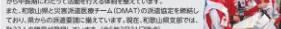


金桔開化



ANSWER

日本赤十字社 合同災害救護訓練に参加

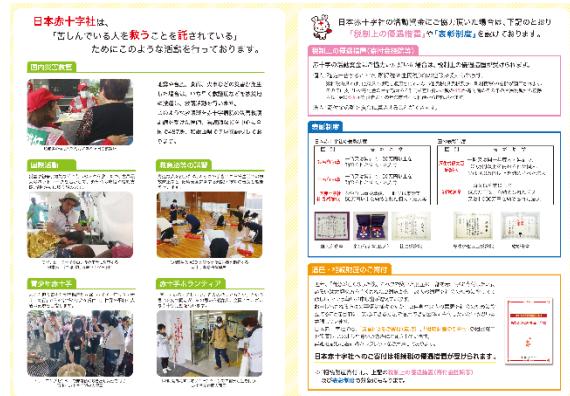


【令和6年2月発行 日赤和歌山】

「外面」



「中面」



② 赤十字NEWSの配付

本社が毎月発行する「赤十字NEWS」を赤十字活動の広報誌として、支部役員、評議員、地区分区長、奉仕団委員長、和歌山県日赤有功会員、青少年赤十字加盟校等へ配布しました。

③ 全国統一会員誌の配付

日本赤十字社の全国統一会員誌「Cross com-B00K」を、赤十字会員の方々に配付しました。

会員誌は、赤十字の活動を支えてくださる会員の方々に、そのご支援がどのような活動に結びついているかを伝えるとともに、会員からのメッセージを掲載するなど、会員と赤十字をつなぐものとなることを目指すものです。

④ 各種イベントへの出展

「和歌山商工まつり」に参加し、赤十字活動パネルの展示、ハンドマッサージのコーナーを設け、赤十字事業のPRを行いました。



⑤ ホームページによる広報活動

当支部のホームページに適宜活動状況等を掲載し、幅広い方々に対して新着情報を提供するとともに、赤十字事業と活動資金募集のPRに努めました。

⑥ 路線バスの車内広報活動

南海和歌山市駅や和歌山市内15ヶ所の停留所名をバス内で案内した後、音声放送及び映像広告を年間約87万回放映し、赤十字活動資金募集のPRを行いました。



年間約87万回を放映(15停留所)

⑦ テレビCMによる広報活動

「夏の高校野球和歌山大会」開催期間中は、スポンサー契約のもと、赤十字活動と活動資金募集のテレビCM(15秒)を放映しました。

また、年間を通して、テレビ和歌山様のご協力のもと、テレビCM(15秒・30秒)を放映しPRを行いました。

テレビCM「赤十字は、動いている！」

(1)



(2)



(3)



(4)



(5)



(6)



⑧ 赤十字広報ポスター及びリーフレットによる広報活動

本社が作成した赤十字ポスターやリーフレットを地区分区及び関係各所に掲示していただくようお願いし、赤十字活動のPRに努めました。



⑨ 横断幕による広報活動

年間を通して、当支部が所在する日赤会館の外壁に横断幕を掲出し、赤十字活動と活動資金募集のPRに努めました。

また、5月の赤十字運動月間の期間中は、フレーズを替えた横断幕で周知を図りました。



(2) 赤十字運動月間（5月）

① 赤十字運動月間周知キャンペーン及びクリーンキャンペーン

令和5年5月1日から31日の赤十字運動月間には、地域赤十字奉仕団員のご協力を得て、JR和歌山駅など県内各地で赤十字会員の募集を啓発する街頭募金活動等を行う「赤十字運動月間周知キャンペーン」及び地元地域で清掃を行う「クリーンキャンペーン」を、実施していただきました。

② 懸垂幕の掲出

赤十字運動月間中、多くの方々に赤十字運動月間を知っていただくため、懸垂幕を和歌山市内ホテルに掲出し、活動資金募集のPRに努めました。



8 評議員会

支部の重要な業務についての審議や、支部長、副支部長等の役員の選出等を行う評議員会は、会員の中から選出された評議員をもって組織されます。

令和5年度に開催した評議員会の概要は、以下のとおりです。

開催日	付議事項	報告事項等
令和5年4月13日 【文書審議】	・役員(副支部長)の選出について	
令和5年6月7日	・令和4年度支部事業報告及び歳入歳出決算 ・令和4年度医療センター事業報告及び歳入歳出決算 ・令和4年度血液センター事業報告	・令和4年度支部歳入歳出補正予算 ・令和4年度医療センター歳入歳出補正予算
令和6年2月20日	・令和6年度支部事業計画及び歳入歳出予算 ・令和6年度医療センター事業計画及び歳入歳出予算 ・令和6年度血液センター事業計画	・令和5年度医療センター歳入歳出補正予算

【支部役員名簿 ※令和6年3月31日時点】

役職	氏名
支部長	岸本 周平
副支部長	岡本 章
副支部長	今西 宏行

役職	氏名
本社常任理事・理事	木谷 聰一
本社代議員	石井 太郎
本社代議員	岡本 政仁
監査委員	野志 幸生
監査委員	西平都紀子

役職	氏名
顧問	高垣 博明
参与	高橋 博之
参与	末松 新一

【評議員名簿 ※令和6年3月31日時点】

選出別	氏名
支部長選出	島 正博
	木谷 聰一
	中谷 弘
	大桑 埞嗣
	勝本 優一
	小向 俊和
	岡本 政仁
	中岡 俊明
和歌山市地区	尾花 正啓
	石井 太郎
	前島五十昭
	西村 征男
	湯川 充
	市川 英治

選出別	氏名
海南市地区	神出 政巳
	山西 義彦
橋本市地区	乾 幸八
	中谷 陽介
有田市地区	望月 良男
	宮崎 正
御坊市地区	三浦 源吾
	酒本 和彦
田辺市地区	真砂 充敏
	愛瀬美智子
新宮市地区	榎本 義清
	大谷 康央
紀の川市地区	岸本 健
	赤井美佐子

選出別	氏名
岩出市地区	中芝 正幸
	家原みや子
海草地区	小川 裕康
	田渕 晴民
伊都地区	平野 嘉也
	宮本 圭子
有田地区	西岡 利記
	北村 忠治
日高地区	久留米啓史
	植田 英明
西牟婁地区	奥田 誠
	上山惠美子
東牟婁地区	西前 啓市
	和田 千明

9 決算概要

【令和5年度一般会計（和歌山県支部）歳入・歳出決算概要】

歳 入

項目	決算額(千円)	比率	備考
社資収入	190,525	63.8%	
補助金及び交付金収入	2,390	0.8%	本社からの交付金
災害義援金預り金収入	30,532	10.2%	令和5年台風第2号等大雨災害義援金
繰入金収入	1,049	0.3%	個人住民税控除対象海外救援金の受領にかかる繰り入れ
資産収入	42,355	14.2%	和歌山県日赤会館に入居するテナントからの賃料等
雑収入	4,757	1.6%	講習で使用する教材の頒布収入、貸会議室の利用収入等
前年度繰越金	27,090	9.1%	
歳入合計	298,698		

歳 出

項目	決算額(千円)	比率	備考
災害救護事業費	61,570	26.2%	救護訓練の実施や救護資機材の整備等に要した費用
社会活動費	27,029	11.5%	救急法等の普及、奉仕団や青少年赤十字の育成等に要した費用
国際活動・本社活動費	29,844	12.7%	国際的、全国的な活動のために拠出した費用
地区分区交付金支出	10,748	4.6%	市町村への赤十字活動交付金
社業振興費	25,798	11%	活動資金の募集や広報活動に要した費用
基盤整備交付金・補助金支出	1,000	0.4%	日本赤十字社和歌山医療センターへの交付金
積立金支出	28,593	12.1%	災害に備えるための資金への積立金等
一般管理・資産管理費	50,558	21.5%	業務運営に要した人件費や物品等購入費、日赤会館の維持管理に要した費用等
歳出合計	235,140		

歳入歳出差額（翌年度繰越額）63,558千円